



文部科学省委託事業

「教科等の本質的な学びを踏まえた アクティブ・ラーニングの視点からの 学習・指導方法の改善に関する実践研究」

平成30年5月9日(水)
学術総合センター 一橋講堂

埼玉県 戸田市教育委員会

戸田市の概要

- 東京都に隣接する交通至便の街
- 30歳代の子育て世帯が多い活力ある街
 - ※人口 約13万9千人 (平成30年4月現在)
 - ※平均年齢 39.7歳 (平成30年4月現在)
- 小学校12校、中学校6校
 - ※児童数 約8,000人
 - ※生徒数 約3,300人



1 とだっ子に身に付けさせたい三つのスキル

人工知能(AI)では
代替できない能力

人工知能(AI)を
使いこなす能力

21世紀型スキル

- ・批判的思考力
- ・問題解決力・企画力
- ・コミュニケーションスキル
- ・プレゼンテーションスキル

汎用的スキル

- ・各教科で学んだ力を
実社会の様々な場面で
活用できる能力

非認知スキル

- ・粘り強さ
- ・やり抜く力
- ・協調性
- ・自制心



1 とだっ子に身に付けさせたい三つのスキル

アクティブ・ラーニング

とだっ子に
身につけさせたいスキル

主体的な学び

対話的な学び

深い学び

21世紀型スキル

- ・批判的思考力
- ・問題解決力・企画力
- ・コミュニケーションスキル
- ・プレゼンテーションスキル

汎用的スキル

- ・各教科で学んだ力を実社会
の様々な場面で活用できる
能力

非認知スキル

- ・粘り強さ
- ・やり抜く力
- ・協調性
- ・自制心



2 研究の背景、委託事業の概要



平成28・29年度 文部科学省委託事業
「アクティブ・ラーニングの視点からの学習・指導方法の改善のための実践研究」
～産官学民の知のリソースの活用～



3 学習・指導方法の改善及び検証

(手立て1) アクティブ・ラーニング研究員による授業研究会

- ① ALの6つのチェックポイントを活用した授業づくり
- ② 研究員による授業の振り返り
- ③ 効果的な学習・指導方法の吟味

＜拠点校7校：研究員各校2名＞

- 年間7回の授業研究会を実施 (6月～1月)
※ ALの6つのチェックポイントによる振り返り
- 授業ビデオ・プロトコルを基に細部に渡り、授業評価を行う。

(手立て2) 各種学力調査を通じた授業改善

- ① 埼玉県・全国学力・学習状況調査結果分析
- ② 「戸田市授業が分かる調査」結果分析
- ③ 市学力確認問題の実施及び結果分析
- ④ 教員質問紙調査分析

学習・指導方法の改善及び検証

検証方法の深化



4 AL研究員による授業研究

アクティブ・ラーニングの効果的なエビデンス検証

○ALの視点からの学習・指導方法の工夫・改善

- ① 『ALの6つのチェックポイント』を活用した授業づくり
- ② 研究員によるチェックポイントを用いた研究協議
- ③ 効果的な学習・指導方法の吟味

◆アクティブ・ラーニングの推進

アクティブ・ラーニング 6つのチェックポイント

アクティブ・ラーニングの視点から、PDCAサイクルに基づき、不断の授業改善を図っていくことが、児童生徒の学力向上につながる。そこで、授業を評価する際の基本的な6項目をチェックポイントとして示した。授業研究の視点として積極的に活用していただきたい。

主体的な学び
対話的な学び

- 1 子供が目標を理解し、課題に興味をもって取り組んでいたか。
□ 本時の目標は明確であるか。(何を学ぶのか)どのように学ぶのか(何ができるようになるか)
□ 目標がどの程度実現しているかを測る適切な評価規準が設定されているか。
□ 意欲を高める導入(課題・資料提示の工夫 等) がなされているか。
- 2 子供が学習の見通しをもつことができていたか。
□ 本時のめあてや学習課題を提示し、児童生徒が見通しをもてるようにしているか。
□ 適切な学習問題(課題)があり、見通しをもって解決することができるか。
□ 問題(課題) 解決的な学習過程が設定され、活動に適切な時間が配分されているか。
- 3 子供が自分の考えを表現することができていたか。
□ 一人一人の具体的な学習活動が行われているか(時間や場の設定)。
□ 調べる、考える、表現する等の活動が目標の実現につながっているか。
□ 相手意識や目的意識、条件などを踏まえて表現しているか。

平成29年度
指導の重点・努力点に掲載

昨年度、市内全教員で『6つのチェックポイント』を基に授業づくりを進める。特に校内授業研・学校訪問等で指導主事が働きかけ、積極的な活用を図った。



4 AL研究員による授業研究

アクティブ・ラーニングの効果的なエビデンス検証

○ALの視点からの学習・指導方法の工夫・改善

- ① 『ALの6つのチェックポイント』を活用した授業づくり





4 AL研究員による授業研究

教科等名	単元名・題材名	学年	指導方法・教具
1	理科 「動物の生活と生物の進化」	中2	知識構成型ジグソー法 ミライシード
2	社会 「水産業のさかんな地域」	小5	知識構成型ジグソー法 ミライシード
3	道徳 「絵葉書と切手」 <B友情・信頼>	小3	ミライシード (ムーブノート) 少人数による話し合い
4	道徳 「ブランコ乗りとピエロ」 <B寛容>	小6	ミライシード (オクリンク)
5	国語 「ふたりでかんがえよう」	小1	ミライシード (オクリンク)
6	算数 「並べ方と組み合わせ方」	小6	少人数による話し合い
7	社会 「開国と近代日本の歩み」 『開国と不平等条約』	中2	少人数による話し合い

- 協調学習、ICT機器、思考ツール等の工夫を取り入れた指導の工夫
- 埼玉県学力・学習状況調査を基にした、学力を伸ばすための効果的な指導方法



4 AL研究員による授業研究

アクティブ・ラーニングの効果的なエビデンス検証

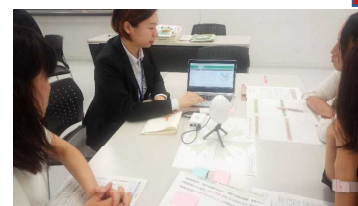
○ALの視点からの学習・指導方法の工夫・改善

②研究員によるチェックポイントを用いた**研究協議**

③効果的な学習・指導方法の吟味



榎田中学校 久保 麗 教諭 理科「動物の生活と生物の進化」 6月12日(月)
第1回 アクティブラーニング研究員 授業研究会の振り返り (AL 6つのチェックポイントを基に)



1 子供が目標を理解し、課題に興味をもって取り組んでいたか。 <small>○本時の内容を振り返る。子供の感情・感情の場を確認する。 <small>○友達同士の意見を聞き合えることで、同じ土壌からスタートが始められた。(ムーブノートの活用)</small> </small>	<small>【有効】</small> <small>○興味をもって取り組めるようになるためには、『必要経路』が重要。そのためには、『質問のつなげり』や『発言の順番』を基に課題を解明していくことが重要である。 <small>○子供の課題に対する興味を高めるためには、ICT機器を使うことは有効である。</small> </small>
2 子供が学習の見過しを省くことができていたか。 <small>○見直しを促すことのできる『仮、見直し』として見直しを促す。 <small>○課題が似ているような課題を、生徒が気づき分けるようになっていた。</small> </small>	<small>【有効】</small> <small>○生徒には1時間の流れがある。その中で、見直しを促している。改めて、課題が書かれている。(戻って)という。</small>
3 子供が自分の考えを表現することができていたか。 <small>○各組からの意見を聞き合える。[質問]から協議を進めていくことが重要らしい。 <small>○個人の考えも、グループに書き、それを共有して話し合う。これは、学習者が意見を述べられるので、とてもよい。 <small>○教師が質問のシートに書き添えていくという習慣が大切と見受けられる。 <small>○話し合いが活発。あるいは必要な話し合いが自分自身で進める。開かれたような資料提示になるというのではない。 <small>○自分の考えを出している。</small> </small> </small> </small></small>	<small>【有効】</small> <small>○一人一人の学習活動が充実するためには、適切な資料提示が不可欠である。 <small>○自分の考えを表現するには、時間・適切な支援も必要である。</small> </small>
4 子供が友達の発言を受け止め、自分の意見と比べていたか。 <small>○グループ活動での考えのぶつかり合いが顕著であった。 <small>○「エッセイ(ト)活動」での活動時間が十分であったので、別途準備をしておく。 <small>○活動時間が短く、自分の考えを表現する時間が必要と見受けられる。</small> </small> </small>	<small>【有効】</small> <small>○グループの影響を考えた上で、「別個的な学び」は成立しにくい。 <small>○記録の方で、考えを交流させる手段として、考えを交流させる手段。</small> </small>



5 授業分析(教室を科学する・Ed Techの活用)

議論評価サービスシステムを活用した授業分析 (株式会社ハイラブルとの共同研究)

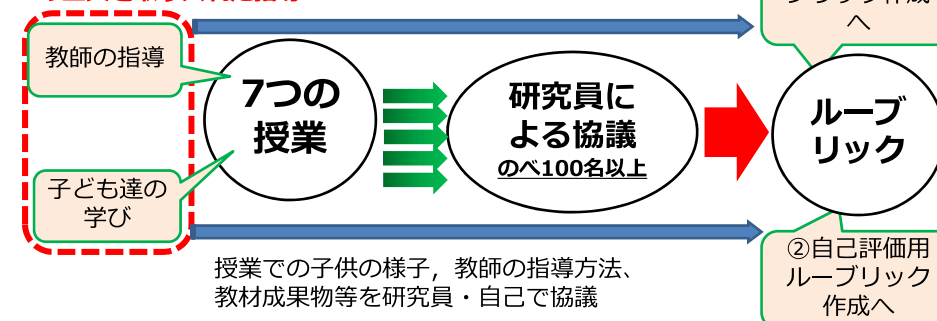
芦原小学校での授業研究会(教員による協議)に導入
戸田第一小学校での授業研究会(授業)に導入
<3大メリット>

- グループでの学び合いを録音し、再生・保存できる。
- 協議の際、音声再現を基に発話分析・指導方法の吟味ができる。
- 子供の変容に何が起因となったかを分析できる。



6 ルーブリックの作成について

協調学習、ICT機器、思考ツール等の工夫を取り入れた指導



授業記録等を基にした、研究員(のべ100名以上)による協議会を通し、シートにまとめ、そこから指導要素を抽出していった。



7 指導用ルーブリックについて

レベル 学習・指導過程 (授業をみる視点)	＜教師用＞ 学習指導ルーブリック	
	レベル1	レベル2
1 子供が目標を理解し、課題に興味をもって取り組んでいたか。 【目指すべき目標・評価規準の達成等】	・指導計画に基づき、適切な目標（資質・能力の三つの柱に基づき「何ができるようになるか」）が設定できた。 ・本時の目標が達成できているか評価できるような評価規準を設定できた。	・指導計画に基づき、適切な目標（資質・能力の三つの柱に基づき「何ができるようになるか」）が設定できた。 ・本時の目標が達成できているか評価できるような評価規準を設定できた。 ・子供の学習意欲を高められるような導入場面を設定することができた。 (学習問題や課題の工夫、提示方法の工夫など)
2 子供が自分の考えを表現することができていたか。 【主に主体的な学びの促進】	・本時の課題を児童生徒へ正しく伝えていることができた。 ・自分の考えを表現することができるように、(主につまりやしている子供たちへの) 支援方法を準備できた。 ・子供たちが自分の考えを表現することができるように、適切な時間や場の設定、ワークシート等の準備ができた。	・本時の課題を児童生徒へ正しく伝えていることができた。 ・自分の考えを表現することができるように、(主につまりやしている子供たちへの) 支援方法を準備し、実行することができた。 ・子供たちが自分の考えを表現することができるように、適切な時間や場の設定、ワークシート等の準備ができた。 ・学習活動が、目標の達成につながっていた。 ・子供たちの考えをあげられるよう、学習形態（個人、ペア、グループ、全体）を設定できた。 ・子供たちの考えをあげられるよう、教具（タブレットPC・ホワイトボード・ワークシート・身体習等）を工夫していた。 ・子供たちの考えを鼓舞（ホワイトボード等で示すことも含む）できた。
3 子供が友達の発言を受け止め、自分の意見と比べていたか。 【主に対話的な学びの促進】	・子供たちが本時に備わることができる「見方・考え方」は、明確であった。 ・子供たちが「見方・考え方」を働かせることができるような、学習活動を設定することができた。	・子供たちが本時に備わることができる「見方・考え方」は、明確であった。 ・子供たちが「見方・考え方」を働かせることができるような、学習活動を設定することができた。 ・子供たちが働かしていた「見方・考え方」を可視化する（板書・白黒紙）ことができた。
4 子供が思考・判断・表現する活動を通して「見方・考え方」を働かせていたか。 【深い学びの促進】	・評価規準・評価計画に基づき、本時の子供たちの姿勢を評価することができた。 ・評価するための方法や場を決定することができた。	・評価規準・評価計画に基づき、本時の子供たちの姿勢を評価することができた。 ・評価するための方法や場を決定することができた。 ・子供たちが本時の学習を振り返ることができよう理由が設定できた。
5 子供が「分かったこと」「やったこと」や「できたこと」など、学びの成果や課題を認識していたか。 【学びの振り返り】		



8 自己評価用ルーブリックについて

レベル 学習・指導過程 (授業をみる視点)	＜児童生徒用＞ 自己評価用ルーブリック		
	レベル1 (概ね小1～3)	レベル2 (概ね小4～6)	レベル3 (概ね中1～3)
1 子供が目標を理解し、課題に興味をもって取り組んでいたか。 【目指すべき目標・評価規準の達成等】	・学習の目標（内容）が分かった。	・学習の目標（内容）が分かった。 ・楽しく学習に取り組んでいた。	・学習の目標（内容）が分かった。 ・楽しく学習に取り組んでいた。 ・友達の、この場面での役割が分かった。
2 子供が自分の考えを表現することができていたか。 【主に主体的な学びの促進】	・今日の課題（問題）について、考えることができた。 ・自分の考えを（5点）表現する（書く・書く・書く・書く）ことができた。	・今日の課題（問題）について、目標を達成するために考えることができた。 ・自分の考えを（5点）表現する（書く・書く・書く・書く）ことができた。	・今日の課題（問題）について、目標を達成するために考えることができた。 ・自分の考えを（5点）表現する（書く・書く・書く・書く）ことができた。 ・友達の考えを聞いて、自分の考えと比べていた。
3 子供が友達の発言を受け止め、自分の意見と比べていたか。 【主に対話的な学びの促進】	友達の発言を聞いて、自分の考えと比べていた。	・友達の意見を聞いて、自分の考えと比べていた。 ・友達の意見と一緒に聞いて、考えたりすること、自分の考えを表現することができた。	・友達の意見を聞いて、自分の考えと比べていた。 ・友達の意見と一緒に聞いて、考えたりすること、自分の考えを表現することができた。
4 子供が思考・判断・表現する活動を通して「見方・考え方」を働かせていたか。 【深い学びの促進】	これまで自分、友達とついでに考えることができた。	これまで自分、友達とついでに考えることができた。	これまで自分、友達とついでに考えることができた。 ・友達の考えを聞いて、自分の考えと比べていた。
5 子供が「分かったこと」「やったこと」や「できたこと」など、学びの成果や課題を認識していたか。 【学びの振り返り】	・何を学習したのかを説明できる。 ・学習したことを振り返ることができた（ノート見直し、振り返りシートなど）。	・何を学習したのかを説明できる。 ・学習したことを振り返ることができた（ノート見直し、振り返りシートなど）。	・何を学習したのかを説明できる。 ・学習したことを振り返ることができた（ノート見直し、振り返りシートなど）。



9 平成30年度 指導の重点主な施策

アクティブ・ラーニング指導用ルーブリック

アクティブ・ラーニングの観点から、PODAサイクルに基づき、**不断の授業改善**を図っていくことが、児童生徒の学力向上につながる。そこで、授業を自己・他己評価する際の基本的な項目を**指導用ルーブリック**として示した。

- 子供が目標を理解し、課題に興味をもって取り組んでいたか。**
【目指すべき目標・評価規準の達成等】
指導計画に基づき、適切な目標（資質・能力の三つの柱に基づき「何ができるようになるか」）が設定できた。本時の目標が達成できているか評価できるような評価規準を設定できた。子供の学習意欲を高められるような導入場面を設定できた。（学習問題や課題の工夫、提示方法の工夫など）
- 子供が自分の考えを表現することができていたか。**
【主に主体的な学びの促進】
本時の課題を児童生徒へ正しく伝えていることができた。自分の考えを表現することができるように、(主につまりやしている子供たちへの) 支援方法を準備し、実行することができた。子供たちが自分の考えを表現することができるように、適切な時間や場の設定、ワークシート等の準備ができた。学習活動は、目標の達成につながっていた。
- 子供が友達の発言を受け止め、自分の意見と比べていたか。**
【主に対話的な学びの促進】
子供たちが本時に備わることができる「見方・考え方」は、明確であった。子供たちが「見方・考え方」を働かせることができるような、学習活動を設定することはできた。子供たちが働かせていた「見方・考え方」を可視化する（板書・白黒紙）ことができた。
- 子供が思考・判断・表現する活動を通して「見方・考え方」を働かせていたか。**
【深い学びの促進】
子供たちが本時に備わることができる「見方・考え方」は、明確であった。子供たちが「見方・考え方」を働かせることができるような、学習活動を設定することはできた。子供たちが働かせていた「見方・考え方」を可視化する（板書・白黒紙）ことができた。
- 子供が「分かったこと」「やったこと」や「できたこと」など、学びの成果や課題を認識していたか。**
【学びの振り返り】
評価規準・評価計画に基づき、本時の子供たちの姿勢を評価することができた。評価するための方法や場を決定することができた。子供たちが本時の学習を振り返ることができよう理由が設定できた。

本ルーブリックは、平成28・29年度採用アクティブ・ラーニング研究員による授業研究会の成果を基に作成した。（詳細については「平成29年度指導の重点」主眼施策「アクティブ・ラーニングの推進」を参照）
本ルーブリックは、「文部科学省発表資料「期待される本格的な学びの推進」及び「PODA」の観点から、指導の重点的な施策として示した。【自己評価用ルーブリック】【教師用ルーブリック】【児童生徒用ルーブリック】の3つのルーブリックのうち、「指導用ルーブリック」の1つである。



10 資質・能力用ルーブリックについて

学習に向かう力・人間性	＜教師・児童生徒用＞ 資質・能力用ルーブリック			
	レベル1 概ね小1～2	レベル2 概ね小3～4	レベル3 概ね小5～6	レベル4 概ね中1～3
1. 主体的に学習に取り組む意欲	学習活動に主体的に取り組む意欲を示す。	学習活動に主体的に取り組む意欲を示す。	学習活動に主体的に取り組む意欲を示す。	学習活動に主体的に取り組む意欲を示す。
2. 学習活動に取り組む意欲	学習活動に取り組む意欲を示す。	学習活動に取り組む意欲を示す。	学習活動に取り組む意欲を示す。	学習活動に取り組む意欲を示す。
3. 学習活動に取り組む意欲	学習活動に取り組む意欲を示す。	学習活動に取り組む意欲を示す。	学習活動に取り組む意欲を示す。	学習活動に取り組む意欲を示す。
4. 学習活動に取り組む意欲	学習活動に取り組む意欲を示す。	学習活動に取り組む意欲を示す。	学習活動に取り組む意欲を示す。	学習活動に取り組む意欲を示す。
5. 学習活動に取り組む意欲	学習活動に取り組む意欲を示す。	学習活動に取り組む意欲を示す。	学習活動に取り組む意欲を示す。	学習活動に取り組む意欲を示す。

なお、上記の目的やアクティブ・ラーニング資質能力ルーブリックについては、PODA教育研究センター主催の研修会やPODAホームページを参照してください。

11 3つのルーブリックについて

○指導用ルーブリック

・ALの視点からの指導方法を考える際、**教師が自己（他者）** 評価できるもの。

○自己評価用ルーブリック

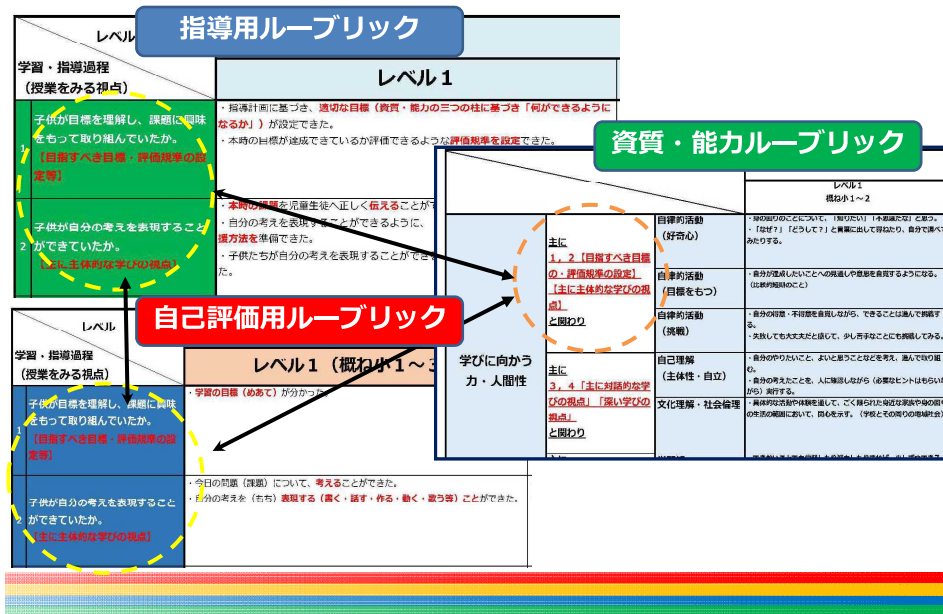
・ALの視点からの（子供たちの）学習を考える際、**子供たちが自己の学びを自己** 評価できるもの

○資質・能力ルーブリック

・ALを通して、子供たちに身に付けさせたい資質・能力

	使用者	使用時	方法	目的
指導用ルーブリック	教師	授業前・後	・チェック項目を基に授業づくり授業分析（振り返る）する。	・ALの視点からの指導の実現
自己評価用ルーブリック	児童生徒	（主に）授業中・後	・チェック項目を基に自己の学びを振り返る。	・学習態度の見直し ・指導の評価（※教師）
資質・能力ルーブリック	教師	授業前	・項目を基に、カリキュラムマネジメントを行う。 ・本時の目標の明確化	・育成すべき資質・能力の明確化

11 3つのルーブリックについて

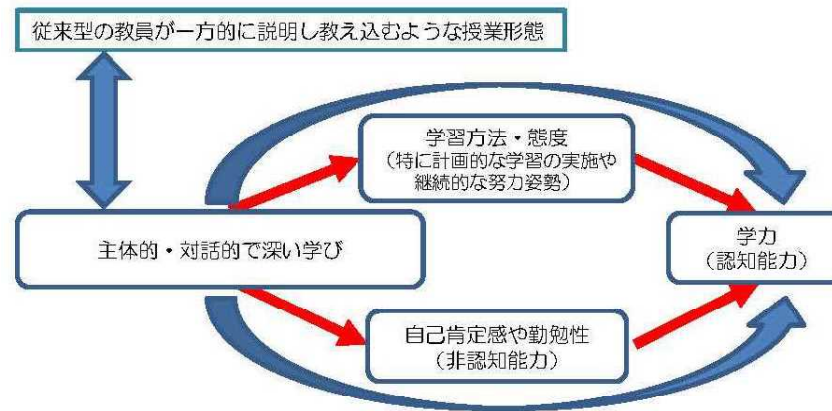


12 各種学力調査に基づく授業改善

各種学力調査等

- ① **埼玉県・全国学力・学習状況調査結果分析**
- ② **「戸田市授業がわかる調査」結果分析**
- ③ **市学力確認問題（ベネッセ）の実施及び結果分析**
- ④ **教員質問紙調査分析**

12 各種学力調査に基づく授業改善



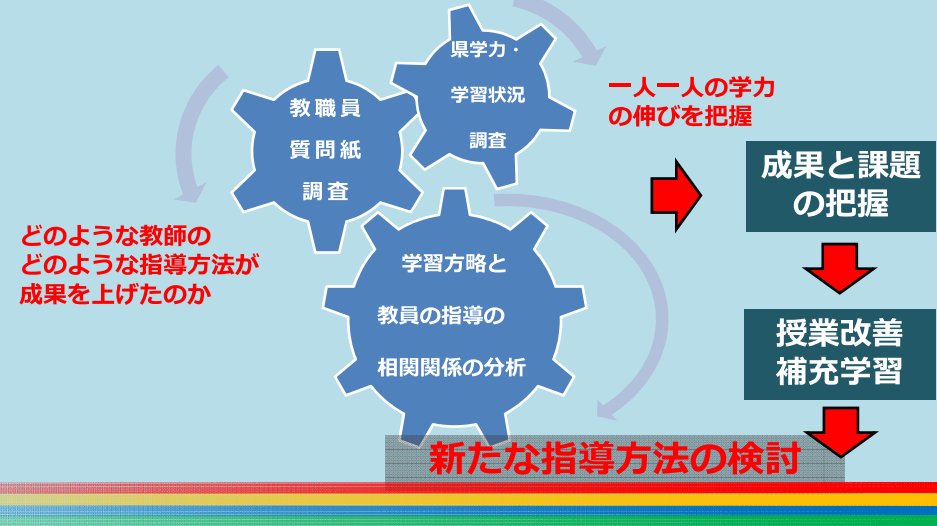
「埼玉県学力・学習状況調査」及び「戸田市教員質問紙調査」の分析より



13 エビデンス検証

エビデンスに基づく学習指導方法の確立

○埼玉県学力・学習状況調査 (IRT・パネルデータ) と教員質問紙調査等の分析結果の活用 (慶應義塾大学との連携)



13 エビデンス検証

アクティブ・ラーニング指導用ルーブリック

アクティブ・ラーニングの視点から、PDCAサイクルに基づき、**評価の改善**を図っていくことが、児童生徒の学力向上につながる。そこで、授業を自己・他己評価する際の基本的な項目を**指導用ルーブリック**として示した。

- 1 子供が目標を理解し、課題に興味をもって取り組んでいたか。**
【目指すべき目標・評価標準の設定等】
○目標設定にふさわしい、適切な目標(資質・能力の三つの柱に基づき「何が出来るようになるか」)が設定できたか。
○本時の目標が達成できているか評価できるような評価標準が設定できたか。
○子供の学習意欲を高められるような導入・展開があったか。(学習問題や課題の工夫、提示方法の工夫など)
 - 2 子供が自分の考えを表現することができていたか。**
【自主学習や学習活動】
○本時の課題を定めて伝えることができたか。
○自分の考えを表現することができるように、(主につまづいている子供たちへの)支援方法を準備し、実行することができたか。
○自分の考えを表現することができるように、適切な時間や場の設定・ワークシート等の準備ができたか。
○学習意欲は、評価の観点から見て高かったか。
 - 3 子供が友達の良い発言を受け止め、自分の意見と比べていたか。**
【自主学習や学習活動】
○子供たちの考えを互いに認められるような、学習形態(個人・ペア・グループ・全体)は設定できたか。
○子供たちの考えを互いに認められるよう、教員(タブレットPC・ホワイトボード・ワークシート)を工夫していたか。
○子供たちの考えを教員(ホワイトボード等で示すことも含む)できたか。
 - 4 子供が思考・判断・表現する活動を通して「見方・考え方」を働かせていたか。**
【自主学習や学習活動】
○子供たちが本時に働かせること(「見方・考え方」)は、明確であったか。
○子供たちが「見方・考え方」を働かせることができるような、学習形態を設定することができたか。
○子供たちが働かせていた「見方・考え方」を働かせること(「聞き・口演等」)はできたか。
 - 5 子供が「分かったこと」「やったこと」や「できたこと」など、学びの成果や課題を表現していたか。**
【学びの評価・振り返り】
○評価標準・評価材料に基づき、本時の子供たちの姿勢を評価することができたか。
○評価する目的や方法を明確に設定することができたか。
○子供たちが本時の学習を振り返ることができるよう学習意欲が設定できたか。
- ※本ルーブリックは、平成28年度・29年度埼玉県アクティブ・ラーニング研究会による授業研究会の協議を基に作成しました。(協議については「平成28年度指導要領解説・主体性発揮(アクティブ・ラーニング)の3つのチェックポイント」を参照)。
※本ルーブリックは、「文部科学省委託事業「教科書の本質の学びを醸成するためのアクティブ・ラーニングの視点からの学習・指導方法の改善のための実践研究」」報告書内に示されている「指導用ルーブリック」「自己評価ルーブリック」「授業・能力ルーブリック」の3つのルーブリックのうち、「指導用ルーブリック」のレベルの内容である。

学年	教科	単元	評価項目	評価	評価者	評価日	備考	
小学校	算数	図形	1.1	図形を構成する点・線・面を正確に認識し、図形を正確に描くことができる。				
			1.2	図形を構成する点・線・面を正確に認識し、図形を正確に描くことができる。				
			1.3	図形を構成する点・線・面を正確に認識し、図形を正確に描くことができる。				
			1.4	図形を構成する点・線・面を正確に認識し、図形を正確に描くことができる。				
			1.5	図形を構成する点・線・面を正確に認識し、図形を正確に描くことができる。				
			1.6	図形を構成する点・線・面を正確に認識し、図形を正確に描くことができる。				
			1.7	図形を構成する点・線・面を正確に認識し、図形を正確に描くことができる。				
			1.8	図形を構成する点・線・面を正確に認識し、図形を正確に描くことができる。				
			1.9	図形を構成する点・線・面を正確に認識し、図形を正確に描くことができる。				
			1.10	図形を構成する点・線・面を正確に認識し、図形を正確に描くことができる。				
			1.11	図形を構成する点・線・面を正確に認識し、図形を正確に描くことができる。				
			1.12	図形を構成する点・線・面を正確に認識し、図形を正確に描くことができる。				
			1.13	図形を構成する点・線・面を正確に認識し、図形を正確に描くことができる。				
			1.14	図形を構成する点・線・面を正確に認識し、図形を正確に描くことができる。				

H30 新しい質問項目の設計



おわりに...

平成28・29年度 文部科学省委託事業 「アクティブ・ラーニングの視点からの学習・指導方法の改善のための実践研究」 ~産官学民の知のリソースの活用~



おわりに...

戸田市教育委員会

Facebook



その他...

レベル	学習・指導過程 (授業をみる視点)	＜教師用＞ 学習指導ルーブリック		
		レベル1	レベル2	レベル3
1	子供が目標を理解し、課題に興味をもって取り組んでいたか。 【自己目標の達成、学習態度の向上】との関わり	・学習計画に基づき、 適切な目標（内容・能力の二つの柱に基づき「何ができるようになるか」） を設定できた。 ・本時の目標が達成できている詳細ができるような 詳細観察を 設定できた。	・学習計画に基づき、 適切な目標（内容・能力の二つの柱に基づき「何ができるようになるか」） を設定できた。 ・本時の目標が達成できている詳細ができるような 詳細観察を 設定できた。 ・子供の学習態度を高めるような 導入場面 を設定することができた。 (学習問題や課題の工夫、復習方法の工夫など)	・クラスの字の書に 適切な目標（内容・能力の二つの柱に基づき「何ができるようになるか」） を設定できた。 ・本時の目標が達成できている詳細ができるような 詳細観察を 設定できた。 ・子供の学習態度を高めるような 導入場面 を設定することができた。 (学習問題や課題の工夫、復習方法の工夫など)
2	子供が自分の考えを表現することができていたか。 【自己目標の達成、学習態度の向上】との関わり	・本時の 課題 を児童生徒へ正しく伝えることができた。 ・自分の考えを表現することができるよう、 （誰がどこまでしている子供たちへの）支援方法 を準備できた。 ・子供たちが自分の考えを表現することができるように、 適切な時間・場の設定 ができた。	・本時の 課題 を児童生徒へ正しく伝えることができた。 ・自分の考えを表現することができるよう、 （誰がどこまでしている子供たちへの）支援方法を準備し、実行することができた。 ・子供たちが自分の考えを表現することができるように、 適切な時間・場の設定、ワークシート等の準備 ができた。 ・学習態度、 目標達成状況 が把握できた。	・本時の 課題 を児童生徒へ正しく伝えることができた。 ・自分の考えを表現することができるよう、 （誰がどこまでしている子供たちへの）支援方法を準備し、実行することができた。 ・子供たちが自分の考えを表現することができるように、 適切な時間・場の設定、ワークシート等の準備 ができた。 ・学習態度、 目標達成状況 が把握できた。
3	子供が友達の問題を受け止め、自分の意見と比べていたか。 【自己目標の達成、学習態度の向上】との関わり	・子供たちの考えを応用されるような、 学習前題（個人、ペア、グループ、全体） を設定できた。	・子供たちの考えを応用されるような、 学習前題（個人、ペア、グループ、全体） を設定できた。 ・子供たちの考えを応用されるよう、 異質（タブレットPC、ホワイトボード、フリップシート・白紙等類） を工夫し活用していた。	・子供たちの考えを応用されるような、 学習前題（個人、ペア、グループ、全体） を設定できた。 ・子供たちの考えを応用されるよう、 異質（タブレットPC、ホワイトボード、フリップシート・白紙等類） を工夫し活用していた。 ・子供たちの 考えを整理 （ホワイトボード等でお手書き）も適切であった。
4	子供が見方・明所・表明する活動を通じて「見方・考え方」を動かしていたか。 【自己目標の達成、学習態度の向上】との関わり	・子供たちが 実際に動かせる見方（見方・考え方） は、明確であった。 ・子供たちに「見方・考え方」を動かせることができるような、 学習活動を を設定することができた。	・子供たちが 実際に動かせる見方（見方・考え方） は、明確であった。 ・子供たちに「見方・考え方」を動かせることができるような、 学習活動を を設定することができた。 ・子供たちが動かさせた「見方・考え方」を 可視化する（板書、口頭等） ことができた。	・子供たちが 実際に動かせる見方（見方・考え方） は、明確であった。 ・子供たちに「見方・考え方」を動かせることができるような、 学習活動を を設定することができた。 ・子供たちが動かさせた「見方・考え方」を 可視化する（板書、口頭等） ことができた。
5	子供が「分かったこと」「やったこと」や「できたこと」など、学びの成果や課題を表現していたか。 【自己目標の達成、学習態度の向上】との関わり	・評価発表・評価計画に基づき、 本時の子供たちの変化を評価 することができた。 ・評価するための 方法や場面 を設定することができた。	・評価発表・評価計画に基づき、 本時の子供たちの変化を評価 することができた。 ・評価するための 方法や場面 を設定することができた。 ・子供たちが 実際の学習振り返り ができるような場面を設定できた。 ・本時の子供たちの 課題 を話し、 次期以降の授業を計画 することができた。	・評価発表・評価計画に基づき、 本時の子供たちの変化を評価 することができた。 ・評価するための 方法や場面 を設定することができた。 ・子供たちが 実際の学習振り返り ができるような場面を設定できた。 ・本時の子供たちの 課題 を話し、 次期以降の授業を計画 することができた。

→評価ルーブリックの補足事項→
上記の学習ルーブリックについて、レベル2は、**全ての児童生徒の達成と評価**が実現されている。
目安としては、レベル2に満たれている内容は、多くの授業で達成される内容である。
または、レベル1の内容を達成できず、授業改善を目指して、また、レベル2に到達された内容が達成された場合は、レベル3を目処としている。

レベル	学習・指導過程 (授業をみる視点)	＜児童生徒用＞ 自己評価用ルーブリック		
		レベル1（概ね小1～3）	レベル2（概ね小4～6）	レベル3（概ね中1～3）
1	子供が目標を理解し、課題に興味をもって取り組んでいたか。 【自己目標の達成、学習態度の向上】との関わり	・学習の 目標（めあて） が分かった。	・学習の 目標（めあて） が分かった。 ・楽しく学習に取り組むことができた。	・学習の 目標（めあて） が分かった。 ・楽しく学習に取り組むことができた。 ・なぜ、 この時間 に取り組むのが分かった。
2	子供が自分の考えを表現することができていたか。 【自己目標の達成、学習態度の向上】との関わり	・今日の課題（課題）について、 考える ことができた。 ・自分の考えを（もし） 表現 する（書く・話す・作る・動く・使う等）ことができた。	・今日の課題（課題）について、 最後まであきらめずに考える ことができた。 ・自分の考えを（もし） 表現 する（書く・話す・作る・動く・使う等）ことができた。	・今日の課題（課題）について、 最後まであきらめずに考える ことができた。 ・自分の考えを（もし） 表現 する（書く・話す・作る・動く・使う等）ことができた。 ・友達の考えをもとにして、 自分の考えを表現 （書く・話す・作る・動く・使う等）することができた。
3	子供が友達の問題を受け止め、自分の意見と比べていたか。 【自己目標の達成、学習態度の向上】との関わり	・友達の意見を聞いて、 自分の考えと比べ ることができた。	・友達の意見を聞いて、 自分の考えと比べ ることができた。 ・友達と一緒に話し合ったり、考えたりすることで、 自分の考えを修正 することができた。	・友達の意見を聞いて、 自分の考えと比べ ることができた。 ・友達と一緒に話し合ったり、考えたりすることで、 友達の考えに納得 することができた。 ・友達と一緒に話し合ったり、考えたりすることで、 自分の考えを修正 することができた。
4	子供が見方・明所・表明する活動を通して「見方・考え方」を動かしていたか。 【自己目標の達成、学習態度の向上】との関わり	これまで自分が、 友達の問題とつづいて考える ことができた。	これまで自分が、 友達の問題とつづいて考える ことができた。 ・ どのように考えたか が、友達に説明することができた。	これまで自分が、 友達の問題とつづいて考える ことができた。 ・ どのように考えたか が、友達に説明することができた。 ・ 新たに考えたこと や、 やっていたこと が生まれた。
5	子供が「分かったこと」「やったこと」や「できたこと」など、学びの成果や課題を表現していたか。 【自己目標の達成、学習態度の向上】との関わり	・何を 学習したのか を説明できる。	・何を 学習したのか を説明できる。 ・今日の学習で わかったこと 、 できたこと が説明できる（ノートに書く、体を動かす等）。	・何を 学習したのか を説明できる。 ・今日の学習で わかったこと 、 できたこと を 他者に説明 できる。

→自己評価用ルーブリックの補足事項→
・概ね、レベル1（小1～3）、レベル2（小4～6）、レベル3（中1～3）のよう目標となる要求している。
・各学年の達成した内容の達成、結果に合わせた状況に応じて、指導することが望ましい。
・1単位時間ごとの振り返りや次々すすむことが望ましい場合は、可能な範囲で自己評価ができる場面を設定できるようにする。

		＜教師・児童生徒用＞ 資質・能力ルーブリック		
		レベル1 概ね小1～2	レベル2 概ね小3～4	レベル3 概ね小5～6
学びに向かう力・人間性	自己理解（好奇心）	自分の興味・関心について、 「何が好き」「何に興味がある」とも、「何が好き」「何に興味がある」とも、自分の興味・関心について、	自分の興味・関心について、 「何が好き」「何に興味がある」とも、「何が好き」「何に興味がある」とも、自分の興味・関心について、	自分の興味・関心について、 「何が好き」「何に興味がある」とも、「何が好き」「何に興味がある」とも、自分の興味・関心について、
	自己理解（目標志向）	自分の興味・関心について、 「何が好き」「何に興味がある」とも、「何が好き」「何に興味がある」とも、自分の興味・関心について、	自分の興味・関心について、 「何が好き」「何に興味がある」とも、「何が好き」「何に興味がある」とも、自分の興味・関心について、	自分の興味・関心について、 「何が好き」「何に興味がある」とも、「何が好き」「何に興味がある」とも、自分の興味・関心について、
	自己理解（興味）	自分の興味・関心について、 「何が好き」「何に興味がある」とも、「何が好き」「何に興味がある」とも、自分の興味・関心について、	自分の興味・関心について、 「何が好き」「何に興味がある」とも、「何が好き」「何に興味がある」とも、自分の興味・関心について、	自分の興味・関心について、 「何が好き」「何に興味がある」とも、「何が好き」「何に興味がある」とも、自分の興味・関心について、
	自己理解（自己理解・自己理解）	自分の興味・関心について、 「何が好き」「何に興味がある」とも、「何が好き」「何に興味がある」とも、自分の興味・関心について、	自分の興味・関心について、 「何が好き」「何に興味がある」とも、「何が好き」「何に興味がある」とも、自分の興味・関心について、	自分の興味・関心について、 「何が好き」「何に興味がある」とも、「何が好き」「何に興味がある」とも、自分の興味・関心について、
	自己理解（文化理解・社会理解）	自分の興味・関心について、 「何が好き」「何に興味がある」とも、「何が好き」「何に興味がある」とも、自分の興味・関心について、	自分の興味・関心について、 「何が好き」「何に興味がある」とも、「何が好き」「何に興味がある」とも、自分の興味・関心について、	自分の興味・関心について、 「何が好き」「何に興味がある」とも、「何が好き」「何に興味がある」とも、自分の興味・関心について、
思考力・判断力・表現力等（教科等の学習に結びつけた見方・考え方）	知識	自分の興味・関心について、 「何が好き」「何に興味がある」とも、「何が好き」「何に興味がある」とも、自分の興味・関心について、	自分の興味・関心について、 「何が好き」「何に興味がある」とも、「何が好き」「何に興味がある」とも、自分の興味・関心について、	自分の興味・関心について、 「何が好き」「何に興味がある」とも、「何が好き」「何に興味がある」とも、自分の興味・関心について、
	問題発見・課題設定	自分の興味・関心について、 「何が好き」「何に興味がある」とも、「何が好き」「何に興味がある」とも、自分の興味・関心について、	自分の興味・関心について、 「何が好き」「何に興味がある」とも、「何が好き」「何に興味がある」とも、自分の興味・関心について、	自分の興味・関心について、 「何が好き」「何に興味がある」とも、「何が好き」「何に興味がある」とも、自分の興味・関心について、
	論議（論理的思考力）	自分の興味・関心について、 「何が好き」「何に興味がある」とも、「何が好き」「何に興味がある」とも、自分の興味・関心について、	自分の興味・関心について、 「何が好き」「何に興味がある」とも、「何が好き」「何に興味がある」とも、自分の興味・関心について、	自分の興味・関心について、 「何が好き」「何に興味がある」とも、「何が好き」「何に興味がある」とも、自分の興味・関心について、
	知識・技能	自分の興味・関心について、 「何が好き」「何に興味がある」とも、「何が好き」「何に興味がある」とも、自分の興味・関心について、	自分の興味・関心について、 「何が好き」「何に興味がある」とも、「何が好き」「何に興味がある」とも、自分の興味・関心について、	自分の興味・関心について、 「何が好き」「何に興味がある」とも、「何が好き」「何に興味がある」とも、自分の興味・関心について、
	各教科等で身に付けるべき資質・能力（知識・技能について）	自分の興味・関心について、 「何が好き」「何に興味がある」とも、「何が好き」「何に興味がある」とも、自分の興味・関心について、	自分の興味・関心について、 「何が好き」「何に興味がある」とも、「何が好き」「何に興味がある」とも、自分の興味・関心について、	自分の興味・関心について、 「何が好き」「何に興味がある」とも、「何が好き」「何に興味がある」とも、自分の興味・関心について、

なお、上記の「資質・能力ルーブリック」については、4年次教育課程新編「コンピテンシー・フレームワーク」及び「コンピテンシー・スタンダード」を参考に、市内各校の最新研修会でも示された。